



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月5日

上場会社名 富士急行株式会社
 コード番号 9010 URL <http://www.fujikyuu.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)堀内 光一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員IR推進室長兼経営管理部長 (氏名)和田 一成 TEL 0555-22-7120
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	37,202	7.8	4,117	24.4	3,539	33.3	2,074	39.6
25年3月期第3四半期	34,495	2.9	3,309	11.9	2,655	19.4	1,486	28.4

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 2,358百万円(49.1%) 25年3月期第3四半期 1,582百万円(50.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	19.54	—
25年3月期第3四半期	14.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	90,387	19,650	20.9
25年3月期	89,881	17,784	19.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 18,925百万円 25年3月期 17,139百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	5.00	5.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,200	5.6	3,800	10.8	2,800	9.3	1,350	4.7	12.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	109,769,477株	25年3月期	109,769,477株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	3,557,458株	25年3月期	3,578,965株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	106,190,306株	25年3月期3Q	106,133,018株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期におけるわが国経済は、円安進行・株価上昇が続いたことなどにより、外国人旅行客の増加や企業業績の回復、個人消費の改善が見られるなど、明るい兆しが顕著になってまいりました。

このような状況のなか、当社グループは、運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり、積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。特に「2013富士芝桜まつり」は、収益増に大きく貢献いたしました。また、6月の富士山世界遺産登録決定以降、富士山及び周辺への注目度が高まったこともあり当社グループ施設の利用者数も増加いたしました。

この結果、当第3四半期の営業収益は372億2百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は41億17百万円（同24.4%増）、四半期純利益は20億74百万円（同39.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(運輸業)

本年6月に富士山が世界遺産に正式登録されたことに伴い、鉄道事業、バス事業ともに新規需要開拓と輸送力の強化に努めました。

鉄道事業では、3月のダイヤ改正から大月～河口湖間の運転本数の増加や沿線の野外音楽施設におけるコンサート開催時に、タイアップした装飾や記念入場券を発売したほか、JR東日本との連携強化により、「富士芝桜まつり」にあわせたJR中央線からの直通列車の増発やJR南武線・高崎線からの初の直通列車を運行いたしました。さらに、夏季シーズンから「世界遺産・富士山フリー乗車券」、「Mt. Fuji Round Trip Ticket」を発売するなど利用強化に努めました。また、富士急ハイランドでのコンサート開催及び富士五湖エリアでのイベント開催にあわせた臨時列車の運行など利用促進と利便性向上に努めました。

乗合バス事業では富士山を訪れる国内外の来訪者が増加し、ご要望に応えるため、富士山駅、河口湖駅から富士山五合目行きバスの通年運行を開始しました。

高速バス事業では10月に山梨県甲州市の恵林寺等観光地と東京・新宿を結ぶ高速バス「甲州市～新宿駅線（甲州ワインライナー）」を新設し、観光客の輸送強化に努めました。また、河口湖駅に4か国語対応券売機を導入し、利便性の向上に努めました。

貸切バス事業では、前年より引き続き好評を博している水陸両用バス「YAMANAKAKO NO KABANA」の2号車を4月に導入いたしました。9月には公益社団法人日本バス協会による「貸切バス事業者安全性評価認定制度」で、富士急行他6社が2つ星認定を獲得いたしました。

なお、自然環境保全の方針に則り、CNG（圧縮天然ガス）車両やハイブリッド車両の低公害バス車両15両を導入しております。

以上の結果、ハイヤー・タクシーなどの各事業を含めた運輸業全体では、営業収益は124億58百万円（前年同期比4.7%増）となり、営業利益は12億46百万円（同46.2%増）となりました。

(不動産業)

不動産販売事業では、山中湖畔別荘地において「紅葉の美しい別荘特集」と題した販売促進キャンペーンを展開、引き続き大人の趣味・嗜好を追求できる「ガレージハウス山中湖」などの「コンセプト・ヴィラ」シリーズや好評の「山中湖の森シリーズ」を中心にお客様に訴求効果の高いWebサイトを核にした積極的な販売活動を展開し、大型注文建売別荘を販売するとともに商品土地の販売に努めました。

また、別荘オーナーを対象にサロンコンサート・自然観察会などのイベントに加え、「秋の別荘ライフミーティング」と称し、薪ストーブでのピザづくり体験などの別荘ライフの楽しみ方を提案するイベントなどを開催しました。

不動産賃貸事業では、御殿場市において、8月から家電量販店に新築建物の賃貸を開始するなど、土地の有効活用を図るとともに、賃貸施設の改修などを行い収入の確保に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は22億66百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は6億25百万円（同12.7%増）となりました。

(レジャー・サービス業)

遊園地事業では、7月富士急ハイランドに隣接して、フランス生まれの人気キャラクター「リサとガスパール」のテーマパーク「リサとガスパール タウン」がオープンし、新たな需要の創出と魅力向上に努めました。また、富士急ハイランド・コニファーフォレスト(特設会場)で開催した音楽イベント「サウンドコニファー229」では、7月から10月の間に約10万人のお客様にご来場いただきました。さらに10月には園内の屋外スケートリンクがオープン、昨年導入した「2枚刃スケート靴」のデザイン、機能性に改良を加え多くの方にお楽しみいただきました。

富士南麓の遊園地「Grinpa」では、7月に立体カラクリ迷路「ココドコ」がオープンし多くのお客様にご利用いただきました。

スノータウン「Yeti」はスキー場として15年連続で日本一早く10月にオープン、ファミリーゲレンデとして好評を博し、12月からは首都圏等からのライナーバスで集客に努め、順調に推移しました。

「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」においては、3月の「さがみ湖温泉 うるり」の開業により更にエリアの魅力が増し、7月には8つの仕様・難易度の異なるバラエティに富んだ迷路群「迷路百貨店」などがオープンし集客に努めました。また、11月には関東最大級の400万球のイルミネーションの祭典「さがみ湖イルミリオン」がオープンし、特に今年はUFO型のプロジェクションマッピングの演出を加え、集客に努めました。

ホテル事業では、ハイランドリゾート ホテル&スパにおいては、富士山の眺望が楽しめるレストラン「フジヤマテラス」の外来需要が順調に推移したほか、11月には大型の国際会議を受注いたしました。また、熱海シーサイド スパ&リゾートは、露天風呂付き客室や洋室へリニューアルいたしました。

サービスエリア事業においては、東名高速道路EXPA SA富士川サービスエリア(上り線)に地元水産・畜産加工品を地域色豊かに取り揃えた「頑固市場」と富士山をテーマにした雑貨、富士山麓で作られた商品をバラエティ豊かに取り揃えた「ふじやま屋」が12月にオープンし順調にスタートしました。

富士本栖湖リゾートにおいては、「2013富士芝桜まつり」について、抜本的な土壌改良や地域特性を踏まえた花苗植え替え等万全の体制をとり、4月13日から6月2日まで開催し、この間多くの話題を集めることができ、過去最高の約43万人のお客様にご来場いただきました。

以上の結果、ゴルフ場事業等を含めたレジャー・サービス業全体の営業収益は194億15百万円(前年同期比6.7%増)となり、営業利益は21億35百万円(同15.0%増)となりました。

(その他の事業)

製造販売業においては、株式会社レゾナント・システムズで国土交通省認定ドライブレコーダーなどの交通機器の販売が順調に推移し、建設業では富士急建設株式会社において、官公庁工事の受注が増加し収益が向上しました。

以上の結果、その他の事業全体の営業収益は、57億38百万円(前年同期比0.2%増)、百貨店業のコスト改善などもあり営業利益は1億56百万円(同55.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、有形固定資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて5億5百万円増加し、903億87百万円となりました。

また、負債は、借入金の減少などにより、前連結会計年度末に比べて13億60百万円減少し、707億36百万円となりました。なお、借入金は、長短合計で12億93百万円減少しております。

純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて18億66百万円増加し、196億50百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の業績予想につきましては、平成25年5月8日に公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,059,027	10,051,246
受取手形及び売掛金	2,790,089	1,820,951
分譲土地建物	8,347,379	8,347,804
商品及び製品	540,466	544,554
仕掛品	18,953	40,196
原材料及び貯蔵品	583,802	677,014
未成工事支出金	173,255	190,537
繰延税金資産	186,226	151,127
その他	938,627	1,132,347
貸倒引当金	△14,210	△11,587
流動資産合計	24,623,617	22,944,192
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	27,753,205	28,495,707
機械装置及び運搬具(純額)	5,205,041	4,811,861
土地	16,243,423	16,328,446
リース資産(純額)	3,852,859	3,991,629
建設仮勘定	798,741	1,762,784
その他(純額)	1,444,350	1,532,861
有形固定資産合計	55,297,622	56,923,291
無形固定資産		
投資その他の資産	3,085,196	3,231,869
投資有価証券	5,028,721	5,486,138
繰延税金資産	449,468	288,913
その他	1,421,347	1,536,460
貸倒引当金	△24,432	△23,532
投資その他の資産合計	6,875,104	7,287,980
固定資産合計	65,257,923	67,443,141
資産合計	89,881,540	90,387,334

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,089,375	2,094,431
短期借入金	23,205,399	15,839,468
リース債務	888,298	1,007,229
未払法人税等	810,331	678,190
賞与引当金	412,665	137,414
役員賞与引当金	6,500	—
その他	4,110,599	4,001,494
流動負債合計	31,523,169	23,758,228
固定負債		
長期借入金	31,657,198	37,730,099
リース債務	3,210,510	3,272,651
退職給付引当金	999,926	981,192
その他	4,706,298	4,994,598
固定負債合計	40,573,933	46,978,540
負債合計	72,097,103	70,736,769
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,126,343	9,126,343
資本剰余金	3,415,942	3,425,693
利益剰余金	5,679,080	7,224,146
自己株式	△1,491,517	△1,483,184
株主資本合計	16,729,848	18,292,998
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	410,021	632,604
その他の包括利益累計額合計	410,021	632,604
少数株主持分	644,567	724,960
純資産合計	17,784,437	19,650,564
負債純資産合計	89,881,540	90,387,334

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益	34,495,368	37,202,781
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	30,404,851	32,279,881
販売費及び一般管理費	781,362	805,323
営業費合計	31,186,213	33,085,204
営業利益	3,309,154	4,117,577
営業外収益		
受取利息及び配当金	43,787	43,620
持分法による投資利益	59,483	72,606
雑収入	112,925	80,593
営業外収益合計	216,195	196,820
営業外費用		
支払利息	813,644	729,577
雑支出	55,933	45,732
営業外費用合計	869,577	775,309
経常利益	2,655,772	3,539,087
特別利益		
固定資産売却益	6,102	3,063
補助金	26,030	1,110
受取補償金	119,024	37,976
特別利益合計	151,157	42,150
特別損失		
投資有価証券評価損	11,137	—
固定資産圧縮損	25,845	1,110
固定資産除却損	365,395	297,755
特別損失合計	402,377	298,865
税金等調整前四半期純利益	2,404,552	3,282,373
法人税、住民税及び事業税	859,613	1,064,101
法人税等調整額	15,801	82,522
法人税等合計	875,415	1,146,623
少数株主損益調整前四半期純利益	1,529,136	2,135,749
少数株主利益	42,616	61,043
四半期純利益	1,486,520	2,074,706

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,529,136	2,135,749
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	61,009	223,490
持分法適用会社に対する持分相当額	△8,134	△464
その他の包括利益合計	52,874	223,026
四半期包括利益	1,582,011	2,358,776
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,539,154	2,297,289
少数株主に係る四半期包括利益	42,857	61,486

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に 対する営業収益	11,852,050	1,694,513	17,767,845	31,314,408	3,180,959	34,495,368	—	34,495,368
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	48,063	377,477	423,545	849,086	2,547,054	3,396,141	△3,396,141	—
計	11,900,113	2,071,990	18,191,390	32,163,495	5,728,014	37,891,509	△3,396,141	34,495,368
セグメント利益	852,927	555,071	1,857,287	3,265,287	100,393	3,365,680	△56,526	3,309,154

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△56,526千円には、セグメント間取引消去△39,283千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に 対する営業収益	12,399,813	1,906,628	18,951,196	33,257,638	3,945,142	37,202,781	—	37,202,781
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	59,037	359,784	464,197	883,019	1,793,602	2,676,621	△2,676,621	—
計	12,458,851	2,266,413	19,415,393	34,140,658	5,738,744	39,879,403	△2,676,621	37,202,781
セグメント利益	1,246,907	625,742	2,135,244	4,007,893	156,443	4,164,337	△46,760	4,117,577

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△46,760千円には、セグメント間取引消去△38,992千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。